

中央生涯学習センター開館30周年記念

「伝えたい 残したい 昔の牛久の写真」展

牛久市は、明治時代より村々が編入合併を繰り返し、昭和40年代より首都圏のベッドタウンとして急速に発展し、同61年に県内19番目の市となり現在に至ります。今回の写真展では、明治から昭和にかけての写真約50点を紹介します。今では見ることのできない市内の風景や町並みなど、懐かしい牛久の風景をぜひご覧ください。



正源寺付近で火の見櫓を建てる様子(昭和20～30年代)

◆日時 **7月1日(土)～30日(日)**

午前9時～午後4時

※7月10日(月)、24日(月)は休み

◆場所 中央生涯学習センター

展示ホール(2階)

◆料金 無料



問い合わせ先 文化芸術課 ☎871-2300



市内の男女共同参画に取り組む企業を紹介します

うしく男・女図鑑

No.4

7年前に入社した高橋節子さんは、「3人目の出産を期に正社員だった仕事を辞め、パートタイムで働いていましたが、子育てを終え、またフルタイムで働きたいという意欲が出てきました」と言い、現在は親の介護をしながらもフルタイムで働いています。高橋さんは、家事都合や天候不良などの理由でパートタイム職員が急に休むことになった場合にも替わりに対応できるように、業務全般について、日ごろから準備しているといいます。



牛久都市開発株式会社
高橋 節子さん

【企業データ】

牛久都市開発株式会社
従業員数/15人(うち女性が6人)
※牛久都市開発株式会社は牛久市男女共同参画ネットワークに参加いただいています。

エスカードビルが全館休館となるのは年2日。正月、お盆も関係なく誰かしらが働いています。限られた人数の従業員で、業務を効率的に円滑に行うために、仕事の内容によって分業化するもの、共有化するものに分けています。長期休暇は難しいですが、従業員間でコミュニケーションを取り合い、みな計画的に有給休暇を取得できています。仕事の見える化・誰でもできる化を積極的に進めています。